

幼児教育における特別支援グループ研究会

グループ員：山田 愛	(南幼稚園)	山本 貴子	(伊丹幼稚園)
福井 友美	(稲野幼稚園)	濱地 磨未	(緑幼稚園)
中村 美智子	(桜台幼稚園)	中畑 みどり	(天神川幼稚園)
中原 諄子	(ささはら幼稚園)	笠井 裕子	(みずほ幼稚園)
小松 美穂	(ありおか幼稚園)	神野 正子	(こやのさと幼稚園)
大東 真由美	(せつよう幼稚園)	小西 真由	(すずはら幼稚園)
藤澤 祐子	(おぎの幼稚園)	野田 アズサ	(いけじり幼稚園)
京治 慶子	(こうのいけ幼稚園)		

担当指導主事：上野 みづほ

キーワード：特別支援教育 幼児教育 幼児理解 教材研究 情報共有

1 研究テーマ

「支援を要する幼児への指導・支援について」

2 研究内容

昨年度の反省に基づき、グループ員が互いに声を出し合えるように小グループを組み、子ども理解と教師の具体的な支援方法について学び合った。

(1) 事例研究

「生活習慣面に課題のある子ども」、「問題行動がある子ども」、「友達関係を築きにくい子ども」など、現在支援に悩んでいる子どもの姿を出し合い、効果的な手立てを話し合った。

(2) 教材研究

① 子どもの育ちの道筋（発達段階）

子どもの年齢に応じた発達の道筋を知ることが、子どもへのよりよい支援につながるのではないかと考え、0歳～6歳までの子どもの育ちを1年ごとに認知面・運動面など様々な視点から調べ、情報交換を行った。「この段階では難しいこと」「発達の順番で身につくようになること」など、新たな発見や気づきを得ることができた。

② 運動遊びの中での支援の仕方

幼稚園で取り組む運動遊び（縄跳び、竹馬等）を提供する時に、どのような支援の工夫をすれば、子どもたちが楽しく経験を増やしていけるかを調べた。その遊びができるようになるためにはいろいろな身体機能や技術が必要である。グループで話し合う中で、遊びを通して子どもたちにそれらを経験させていくための、様々な支援の方法を知ることができた。

(3) 情報交換

担任との連携、職員間連携、保護者支援、個別の指導計画の書き方等、各園での実践や具体的な支援方法について情報交換を行った。

3 成果と課題

(1) 成果

グループ員は、各園に1名配置のチューリップ学級担当という立場である。同じ立場の職員が集まって情報交換をすることは、他園の取り組みを知ることができるよい機会となった。また、具体的に悩んでいることを出し合い、悩みを共有したり意見を出し合ったりすることで、自園の対象児の支援に活かすことができた。

(2) 課題

支援を必要とする子どもの姿や課題は多岐にわたる。それぞれの子どもの姿に応じた具体的な指導方法について理解を深めていく必要がある。また、実践に活かせるような教材研究や話し合いを深め、より専門性を高める必要がある。